

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書

団体名	学童ホール支援グループ
-----	-------------

取組の名称	子どもを見守るみんなの居場所作り事業		
実施場所	たまっ子学童ホール		
対象地域	川崎市多摩区		
対象地域の特色・課題	<p>近隣に小学校が多くあり、子育て世代の多い地域である。 新しく保育園も出来、遅い時間まで働く母親の多いことがわかる。 シニア世代も多いが、活躍できる場は少ない。</p>		
取組の趣旨・目的	<p>○共働き家庭やひとり親家庭の親子を支援する。 ○地域の人も気軽に立ち寄る事ができる、みんなの居場所をつくる。 ○多世代が交流し、みんなで子どもを見守る。</p>		
実施内容・実施スケジュール	<p>①放課後児童健全育成事業 学校休業日は朝 7 時から 21 時まで、学校のある日は放課後から 21 時まで、放課後児童支援員が保育する。 ②地域交流のイベント開催 たまっ子どうぶつしょうぎ大会、たまっ子まつり ③こども食堂（毎月第三金曜日）ほかほか御飯の会主催</p>		
参加者の年代	①小学生 ②幼児～大人 ③乳児～大人	定員 （1回あたり）	①25名 ②なし ③40名
実施頻度	①月曜～土曜 ②しょうぎ大会（年6） たまっ子まつり（年3） ③月1回	活動日数 （年間）	271日

<p>スタッフ体制</p>	<p>①2～4名 ②しょうぎ大会・3～4名 たまっ子まつり・5～8名 ③2～3名+ほかほか御飯の会</p>
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>ほかほか御飯の会 こども食堂は、買い出し・準備・調理の全てをお任せしている。事前にこちらで予約を受け付け、代表者に予約数を連絡し、人数分の食材を買い出ししてもらう。当日は15時半から台所と二階を貸し出す。近隣のシニアボランティアも数名が手伝いに来て準備し、片づけまでしてくれる。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>①1年生から6年生までの集団の中で人間関係を学び、自分の居場所を作る事で発達障害の子も安心して落ち着いて生活する事ができる。新型コロナによる学校の休校時は早朝から開室し、働く保護者のため柔軟に対応している。通年で中学生以上のボランティアを受け入れて、学校では学べない事を体験してもらっている。学童児と一緒に過ごす事で、小学生だけでなくみんなの居場所作りとなっている。</p> <p>学んでいる事を保育の中で実践し、卒業後に臨床心理士や音楽療法士、小学校教諭になった大学生・院生もいる。精神保健福祉士が月に2～3回保育に入る事で、学童児の問題行動やスタッフのメンタル面をサポートしてもらっている。</p> <p>②どうぶつしょうぎしょうぎ大会、たまっ子まつり共に回数を重ね、開催を楽しみに待っている近隣の方も多。バザー品や手作り品も色々と届いている。たまっ子まつりは、学童児が店の当番する事で、責任感が生まれ社会性も見につけている。</p> <p>③一人で淋しく食事をする「孤食」を減らし、地域で子どもを見守る事ができる。地域の人との交流の場にもなり、シニアボランティアから宿題や将棋を教えてもらったりもしている。</p> <p>敬老の日やクリスマスには、学童児が作ったプレゼントを渡し、感謝の気持ちを表して、より交流を深めている。</p>